

募集開始 2026.7.15～7.24

協力事業者募集

データ×AI活用実証事業

観光庁 令和8年度 地域の新たな観光まちづくり推進事業（アドバンスモデル）採択
一般社団法人沖縄やんばるDMO

募集期間

7/15（火）～7/24（金）17:00

募集件数

4社程度

対象エリア

やんばる地域
（沖縄県北部12市町村）

対象業種

宿泊業・観光施設／体験・アクティビティ
提供業・飲食業 等

実証期間

2026年9月～2027年1月
（約5か月）

参加費用

無償（観光庁補助事業として実施）

ダッシュボード・AIレポート・AIエージェント（Claude）を無償提供、専門導入・伴走支援も事務局が担当

応募資格

- ・やんばる地域（沖縄県北部12市町村）に事業所を有すること
- ・取組1～3（AIレポート・Claude活用・個別ダッシュボード）すべてに協力できること
- ・データ活用による経営改善に意欲的であること

選定方法（事務局にて選考）

- ・事業内容とデータ提供可能な環境 ・実証への参加意欲／体制
- ・施策実行／成果創出、他社への横展開可能性
- ・業種・エリアのバランス（既参加3社は宿泊業中心のため他業種を重視）

申込フォーム



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfynfejhsxDMuvvvsPScL59Q5A1j6ulki2-m2Hs0GoMAnckfA/viewform?usp=header>

スマホでスキャンして応募

締切 7/24（金）17:00

お問い合わせ：一般社団法人沖縄やんばるDMO 担当：瀬尾 克憲 TEL 0980-43-4560／info@yambaru-dmo.org

令和8年度 観光地・観光産業における 観光DX推進事業

～ データとAIで自走する観光マーケティングの確立～

やんばる観光DMPを基盤に、データとAIを活用した
観光マーケティングの自走化を実現し、
やんばる地域の「稼ぐ力」と「顧客満足度」向上につなげます。



やんばるの滝



万座毛



ガジュマル



ヤンバルクイナ

1

個別ダッシュボード



事業者単位の観光データを
可視化し、課題・強みを把握。
意思決定と改善を支援します。

2

レポート配信



AI分析レポートをLINEと
Webで月次配信。
明日のアクションを
促進します。

3

Claudeの活用



AIエージェントによる分析・
施策提案で、データ活用を
意思決定と行動に変換します。

4

地域事業者伴走支援



事業者に寄り添った伴走支援で、
施策の実行・検証・改善までを
継続的にサポートし、
自走化を実現します。



実施主体
一般社団法人
沖縄やんばるDMO



対象エリア
沖縄県北部地域
(12市町村)



実証事業者

8社（沖縄やんばるDMO含む）
〔内訳〕
・宿泊業 2社 ・観光施設 3社
・土産・飲食 1社 ・道の駅 1社
・沖縄やんばるDMO



実施期間
2026年7月～2027年1月
(7か月間)



データとAIの力で、やんばる観光の未来をともに創り、**稼ぐ力** と **顧客満足度** の向上を実現します。

1. 全体概要

GOAL



データ×AIで自走する観光マーケティングの確立

やんばる地域の宿泊・観光事業者を対象に、観光DMP (Yam-D) と生成AIを活用したデータ駆動型経営の実装に取り組むことで、事業者の「稼ぐ力」と顧客満足度を最大化し、地域全体の消費拡大と再来訪促進を目指す。

KGI / KPI

KGI データ×AI活用のユースケース数
4件 = 実証事業者(8社)のうち50%

KPI AI活用施策実行件数
8件 = 1社1件以上



目的



事業者が自らデータを見て
立案・実行・検証できる
「データ×AIで自走する
観光マーケティング」の
サイクルを定着させる。

課題



産業構造

やんばる地域は小規模事業者が多く、人材不足・専門スキル不足という構造的課題を抱える。



業務・経営

データ分析・意思決定が困難、施策立案が経験・勘に依存、PDCAが継続されない。



結果

観光客は来ているが、回遊しない・消費が広がらない
→地域全体の売上につながらない。

実施内容（4本柱）

1 個別ダッシュボード



事業者単位の観光客属性・満足度・改善点・NPS等を可視化。データに基づく意思決定を支援し、AIの示唆のエビデンスとしても活用。

2 レポート配信



AIが観光客データを分析し、旅行者属性・ニーズ・満足度・アクション推奨を月次で配信。明日のアクションにつながる情報を届ける。

3 Claudeの活用



Claudeを活用し、売上構造の因数分解・課題特定・施策立案・優先順位付けを自動化。分析スキルがなくても直感的にデータ活用を実現。

4 地域事業者伴走支援



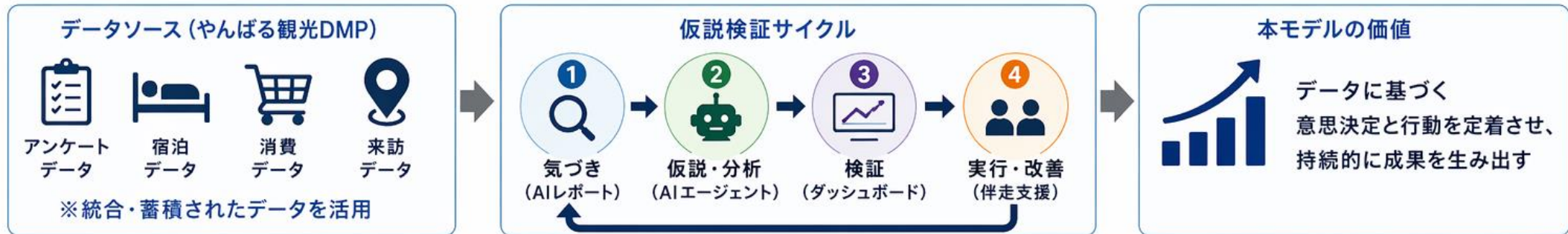
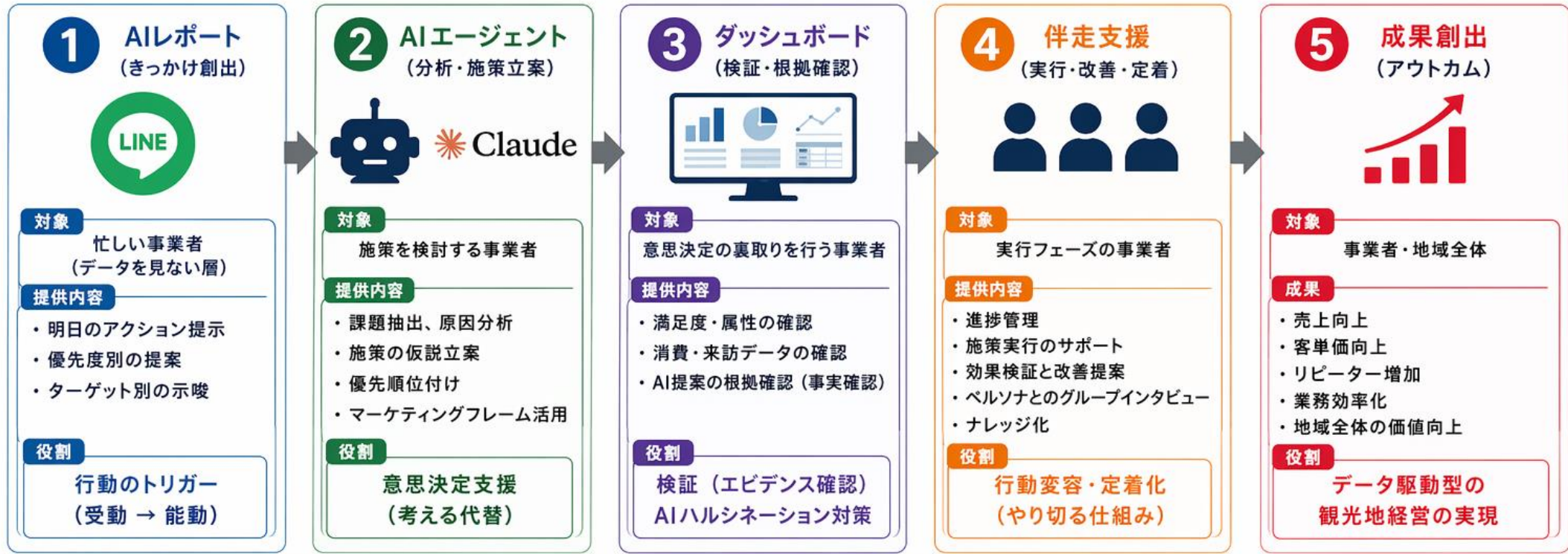
ワークショップや定例支援を通じて、施策の実行・検証を伴走。行動変容と定着化を支援し、事業者の自走を後押しする。



データ×AIの活用と伴走支援により、事業者の「稼ぐ力」と顧客満足度を高め、やんばる全体の観光価値向上を実現する

沖縄やんばる観光DMP活用モデル(データ駆動型観光地経営の実現)

概要：AIと伴走支援により、仮説検証型の意味決定と施策実行を定着させ、持続的な観光地経営を実現する



最終ゴール

データ駆動型の観光地経営の実現
(根拠に基づき改善し続ける自律的な経営体制)



2-1

個別ダッシュボード | 位置づけと目的



目的

事業者（自社施設）の
サービス・商品・プロモーション等の改善を通じて、
観光客の満足度向上を実現します。

KPI



ダッシュボード閲覧率

70%以上
(月間・社)

既存（Yam-D）との違い

既存：Yam-D（エリア単位のマクロ情報）

 データ単位	エリア単位（12市町村・36エリア）
 利用者	県・観光連盟・DMO
 役割	エリアの観光動向の把握・俯瞰
 閲覧範囲	公開

マクロ
×
ミクロ両輪で地域の
観光を強化！

新規：個別ダッシュボード（事業者単位のミクロ情報）

 データ単位	事業者単位（自社施設）
 利用者	個別事業者・DMO・観光連盟 ※権限管理により自社／自エリアのみ閲覧可能
 役割	課題・強みの把握 → 施策検討・改善
 閲覧範囲	自社データ／自エリアのみ

個別ダッシュボードの3つの役割

1

課題・強みの把握

観光客の属性・行動・満足度・消費などを
ミクロレベルで可視化し、課題や強みを
明確に把握できます。

2

施策検討・改善

データに基づいた改善のヒントを発見し、
サービス・商品・プロモーションの改善
につなげます。

3

AI（Claude）のエビデンス確認

AIが提案する施策や示唆の根拠を、
自社の実データで確認し、納得感のある
意思決定を実現します。



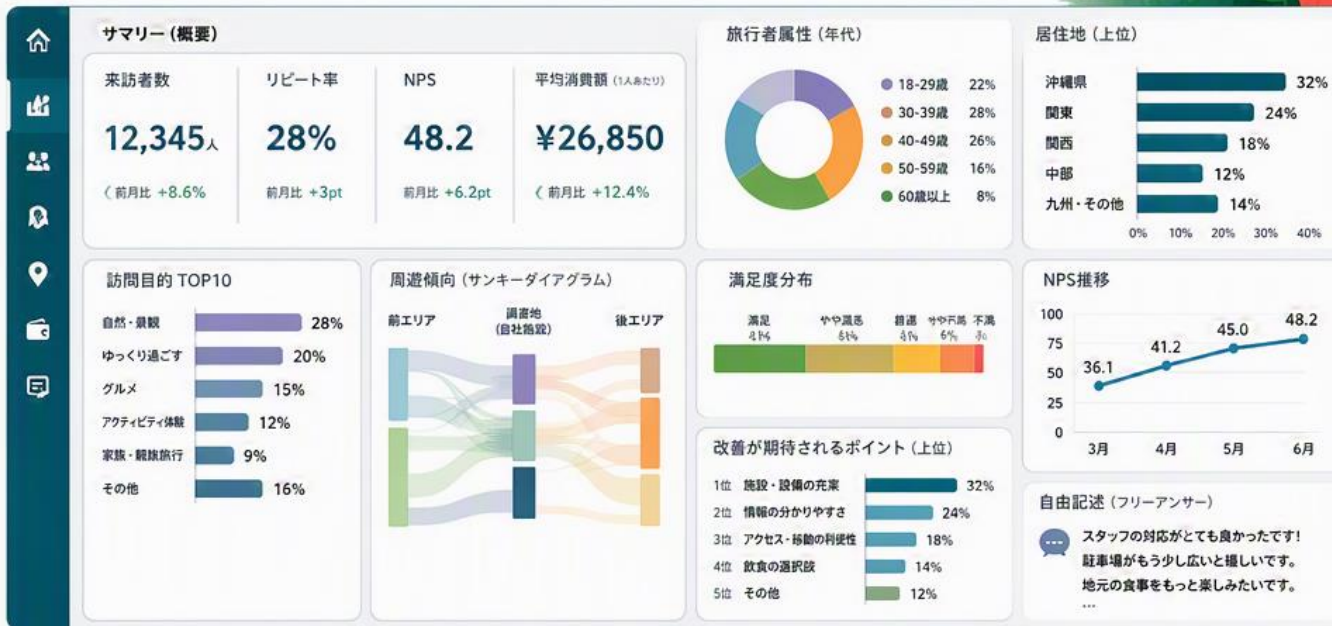
マクロ（エリア全体）とミクロ（事業者単位）のデータ活用で、データに基づく経営を実現し、地域の「稼ぐ力」を高めます。



可視化する主な項目 (5つのカテゴリ)

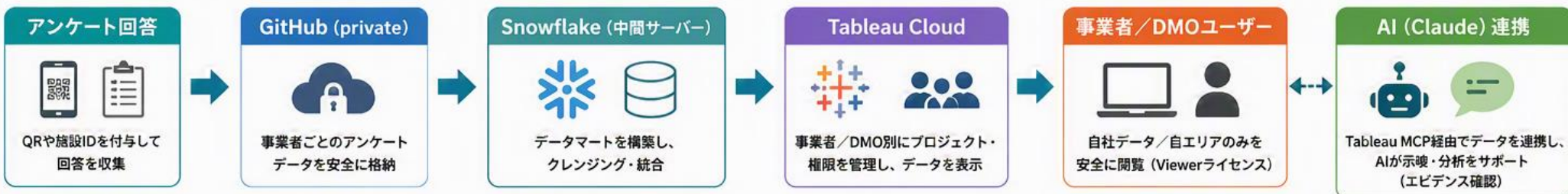
- 1 旅行者プロフィール (誰が)**
性別・年代・居住地・世帯年収・同行者構成・訪問回数など
- 2 訪問目的・情報収集 (何をしに)**
訪問目的TOP10、情報収集チャンネルなど
- 3 周遊傾向 (どこに)**
前エリア→調査地→後エリアのサンキーダイアグラムなど
- 4 消費行動 (いくら使ったか)**
平均消費額 (宿泊+観光+飲食+土産)、宿泊数分布、交通費など
- 5 満足度・NPS (どう思ったか)**
満足度分布、NPS分布、来訪意向、自由記述 (フリーアンサー)、改善が期待されるポイントなど

ダッシュボード画面イメージ (例)



※画面はイメージです。実際の画面は変更となる場合があります。

システム構成 (データの流れ)



権限管理により、事業者は自社データのみを閲覧可能。データは安全に保護されます。



多様なデータを統合・可視化し、事業者の課題発見と意思決定を支援する、データ活用の基盤を提供します。

2-3

個別ダッシュボード | 対象事業者と活用スケジュール

対象事業者

実証事業者 7 社（沖縄やんばるDMO除く）

観光客と接点のある事業者を対象に実証を実施します。

宿泊業



2 社

- ・ホテル
- ・リゾートホテル など

観光施設・体験



3 社

- ・観光施設
- ・体験・アクティビティ施設 など

飲食業



1 社

- ・レストラン・カフェ
- ・飲食店 など

道の駅など



1 社

- ・道の駅
- ・物産・直売施設 など

※ アンケート設置事業者かつ、アンケート回答数の実績のある事業者を採択します。

取り扱うデータ

観光客アンケートデータ
（国内・インバウンド）

- ・旅行者属性（性別・年代・居住地など）
- ・訪問目的・情報収集
- ・周遊行動・訪問回数・宿泊数
- ・消費額（宿泊＋観光＋飲食＋土産など）
- ・満足度・改善点・NPS・来訪意向
- ・自由記述（フリーアンサー）など

宿泊クローリングデータ



- ・3か月先の予約数
- ・平均宿泊単価（ADR）
- ・稼働率・販売室数
- ・宿泊日・予約リードタイム など



将来的に観光オープンデータ、口コミ、Wi-Fi等との連携も拡張予定

活用の流れ（3ステップ）

1 データを可視化



観光客の属性・満足度・消費行動などを
わかりやすくグラフで表示。
自社の状況を直感的に
把握できます。

2 課題・強みを発見



数値で傾向を把握し、
他社比較や推移から
課題や強み、改善の
ヒントを見つけます。

3 施策改善につなげる（PDCA）



データに基づいた施策を実行し、
効果検証と改善のサイクルを
回します。
Claudeと連携し、AIの示唆の
エビデンス確認にも活用します。



AIエージェント（Claude）と連携し、データに基づく意思決定と施策立案を支援します。

スケジュール（技術構築から利用開始まで）

7月中旬

Phase 1-1

GitHub Private
環境の準備事業者ごとのデータを
安全に格納する環境を構築

7月中旬～8月上旬

Phase 1-2

データマート構築
（Snowflake）Snowflake上にデータマートを構築し、
分析用データを整備

8月中旬～下旬

Phase 1-3

ダッシュボード構築
（Tableau Cloud）Tableau Cloudで事業者ごとの
ダッシュボードを構築・テスト

9月

Phase 2 開始



事業者利用開始

事業者へのアカウント提供と
利用サポートを開始

実証期間中は無償で提供し、事業者のデータ活用とPDCAを伴走支援することで、地域の「稼ぐ力」を最大化します。

3-1

レポート配信 | 概要

やんばるハッピーアンケートのデータをAIで分析し、
月次レポートをLINEとWebでお届けします



目的



観光客の属性・ニーズ・満足度をAIで分析し、
事業者の意思決定・行動を支援

・情報発信・商品造成・販促・単価向上・
再来訪促進につながる“明日のアクション”を提供

KPI

LINE友達登録者数

160人



配信スケジュール

国内 月に1回配信
9月～1月

インバウンド 四半期に1回配信
10月・1月

📅 配信時期 月初（1日～5日）に配信

※ サマリーはLINEで、詳細はWebでいつでも確認可能

配信対象



地域事業者

（宿泊・観光施設・飲食等）



データに基づく改善や、
商品造成・販促・単価向上に活用

行政

（市町村・観光関連部門等）



観光政策の企画・立案や、
地域戦略の検討に活用

観光協会・DMO



地域全体の動向把握や、
関係者への情報共有に活用

配信形式（2つのチャンネル）

1 LINE配信（速報・要約）



- ・月次レポートの要点を簡潔にまとめ、要約
- ・スマートフォンで閲覧可能
- ・意思決定のスピード向上



エリア別Webレポート（拡張）

市町村単位および36エリア単位のレポートを公開

2 Webレポート（詳細版）



- ・WordPress上にHTML形式で公開
- ・詳細データ・図表を深掘り分析
- ・詳細データ・図表を深掘り分析
- ・アーカイブとして蓄積・参照可能

配信範囲

全体+12市町村
（36エリア）単位



対象データ

- ・国内アンケート
- ・インバウンドアンケート
（期間中1～2回）

レポート配信の特徴

1 単一データソースによる信頼性



やんばるハッピーアンケート
（国内・インバウンド）を
統一的に活用し、
一貫性のある分析を実現

2 AIによる高速レポート生成



Claudeがデータを分析し、
レポート原案を自動生成。
短時間で質の高いレポート
を提供

3 承認ベースの安全運用



Coデザ研究所で1次確認後、
DMOが最終確認・承認。
正確で信頼性の高い内容を
配信

4 二層+エリア別配信による活用促進



LINEで要点を素早く共有、
Webで詳細を深掘り。
エリア別レポートで
地域特性に応じた活用を支援

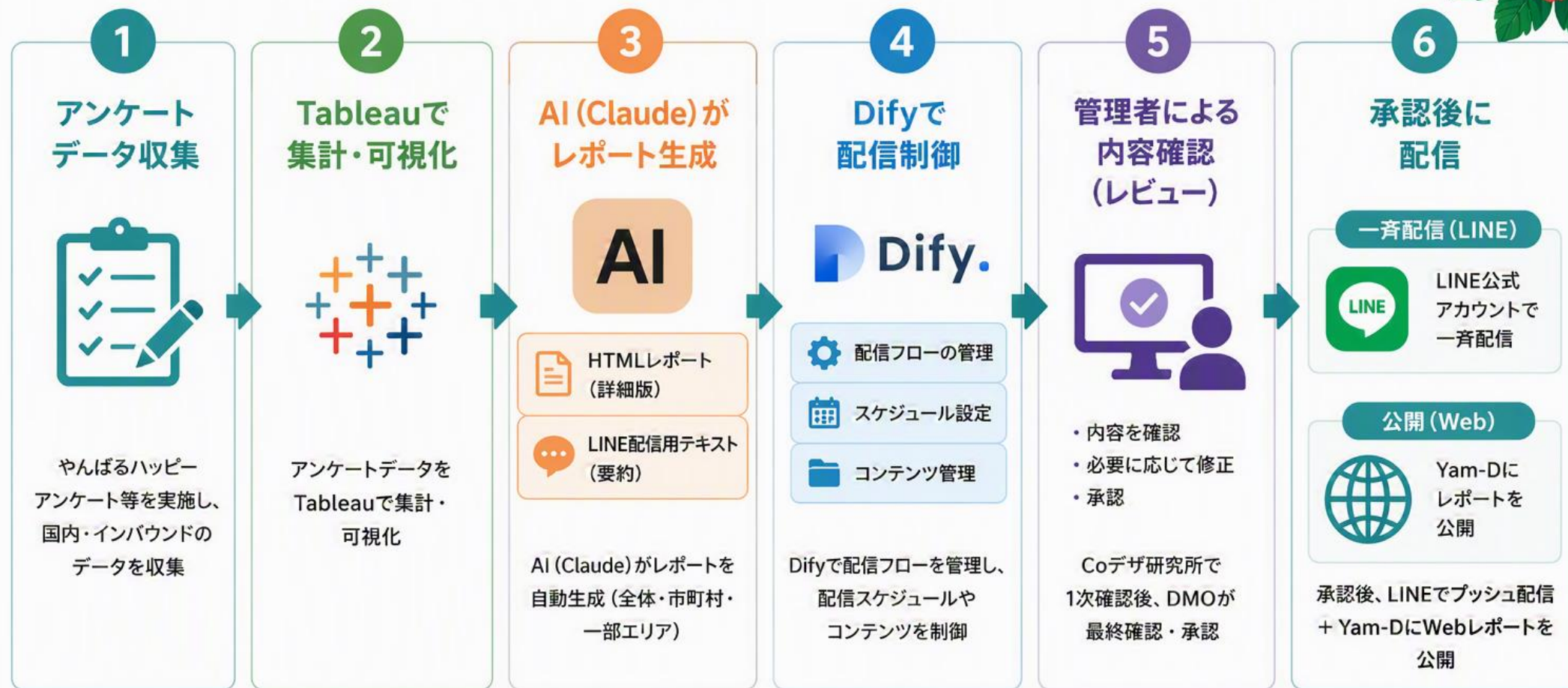


「気づき」と「アクション提案」をタイムリーに届け、データに基づく意思決定と行動を後押しし、**地域全体の観光力強化**を支援します！



3-2 レポート配信 | 配信フロー（仕組み）

データ収集から配信までの一連の流れ



データに基づいたレポートを、適切に**生成・確認**し、効果的に**配信・公開**します

4-1 Claudeの活用 | 位置づけ・目的・KPI

AIがデータを読み解き、課題抽出・施策提案までを支援することで、
“考える時間”を創出し、事業者の意思決定と行動を加速させます



目的



観光DMPデータとClaudeを活用し、
高度な分析・施策立案・実行・検証が
できるデータ駆動型マーケティング
プロセスを確立する

- ✓ データに基づいた意思決定を支援
- ✓ 事業者の「稼ぐ力」と顧客満足度の最大化に貢献
- ✓ 地域全体の消費拡大・再来訪促進につなげる

KPI

Claude活用による
施策実行数

8件

(1社1件以上)



キーコンセプト

自動コンサルティング機能

全国初！

最新の生成AI技術 (Claude SKILLS + Tableau MCP) を
観光DMPのデータと連携し、AIが自律的にデータの読み解き・
改善提案 (ファシリテート) までを実施します。

 Claude ×  Tableau MCP

4つの機能の中での役割 (全体設計)

① AIレポート
(Dify / LINE)



行動のトリガー
(受動 → 能動)

② AIエージェント
(Claude)



意思決定支援
(考える代替)

③ ダッシュボード
(Tableau)



検証 (エビデンス確認)
= AIハルシネーション対策

④ 伴走支援



行動変容と定着化
(やり切る仕組み)



Claudeは「意思決定支援の中核」として、事業者のデータ活用を強力にサポートします！



4-2 Claudeの活用 | 提供内容・活用スキル

Claudeがデータを読み解き、課題抽出から施策提案までを自動でサポートします

Claudeが実施する主なプロセス



活用するスキル (Skills)

1 観光地域ブランド構築スキル (9STEP)

五井氏設計

ブランド・マネージャー設定設金のフレームワークに基づく

- STEP0 目的設定
- STEP1 環境分析 (PEST/3C/SWOT)
- STEP2 セグメンテーション
- STEP3 ターゲティング・ペルソナ設計
- STEP4 ポジショニング
- STEP5 ブランドアイデンティティ
- STEP6 4P/4Cミックス
- STEP7 ブランド要素 (コンテンツ等)
- STEP8 目標設定・行動計画

Tableau MCPでN=5,087のアンケートデータを分析

2 施設運営スキル (10スキル収録)



宿泊・観光・共通の10スキルを収録

宿泊 (3スキル)

観光 (3スキル)

共通 (4スキル)

- ✓ 予約データ・来場データ・口コミを渡すだけで分析レポートを生成
- ✓ 設定は一度きり (データをCSV/Excelで渡すだけ)

3 個社ごとのカスタマイズスキル



個社データに合わせてスキルをカスタマイズし、より精度の高い分析・提案を実現

自社の課題や目標に応じて、プロンプトや分析観点を個別に最適化します

Claude活用イメージ (データを渡すだけで、AIが自律的に分析・提案)



Claudeの活用により、事業者の「考える時間」を創出し、データに基づく最適な意思決定と行動を強力に支援します!



5-1 地域事業者伴走支援 | 方向性

AIとデータを“日常業務で使いこなす”状態まで支援し、事業者の自走化を実現します

目標

- KGI** ユースケース **4**件創出
(利益向上に向けたAI×データの活用施策・効果)
- CSF** 自らデータを活用した施策を実行できる状態になる

誰に伴走するか（担当者レベル別アプローチ）

1 経営者レベル（戦略レイヤー）



- ✓ 全社的なデータ活用・意思決定が可能
- ✓ 経営課題の解決につながる戦略策定を支援

2 担当者レベル（実務レイヤー）



- ✓ チーム・部門内の小さな意思決定が可能
- ✓ 日常業務でのデータ活用・改善アクションを支援

伴走支援の2つの軸

1 業務プロセス組込型

データを日常業務に恒常的に組み込む



アンケートを定例会等に出せる形で提供し、日常業務で活用



業務改善のノウハウを事業者に移管



継続的なPDCAサイクルの定着を支援



両輪で回し、事業者の“稼ぐ力”を最大化！

2 マーケティング施策型（ユースケース創出型）

1事業者1施策でPDCAを回し、成果を創出・横展開



アンケート+ヒアリングから1事業者1施策でPDCA



ステップごとに施策をレベルアップ



成功事例を創出・共有し、他事業者へ横展開

対象データ

内部情報（5項目）



経営情報
(売上・KPI等)



ヒアリング情報
(現場の声)



業務フロー情報
(オペレーション)



顧客情報
(属性・行動・満足度)



マーケティング情報
(販促・プロモ等)

外部情報（4項目）



観光DX事例集
(他地域の優良事例)



時事ニュース
(ビジネス・社会動向)



オープンデータ
(統計・観光データ等)



やんばる
ハッピーアンケート
(観光客データ)

稼ぐための問題点特定フレーム（売上向上にフォーカス）



業務プロセス組込 × マーケティング施策の両輪で、事業者の「稼ぐ力」を高める伴走支援を実現します！



5-2 地域事業者伴走支援 | スケジュール

事業者ごとに月次サイクルで伴走し、AIとデータの活用を定着・自走化へと導きます

フェーズ全体像

Phase 1 関係構築・課題整理・AI活用助走



7月末～8月末

事業者との関係構築、課題整理を行い、AI活用に向けた準備を進めます

Phase 2 AI活用施策実行 (PDCA 2周以上)



9月～12月

AIを活用した施策を実行・検証し、PDCAを回して成果創出を目指します

Phase 3 振り返り・成果共有・報告



2027年1月

成果を振り返り、事例を整理・共有し、最終報告書の提出を行います

訪問スケジュール (目安) ※8回目以降は事業者により、2ヶ月で1サイクルになる場合もあります



月次進捗報告 (計4回)

月次で施策の進捗・成果・課題を共有し、改善検討につなげます



実施方法：メール・オンライン・対面で実施します

伴走支援のPDCAサイクル (イメージ)



伴走支援のゴール



✓ AI・データを日常業務に組み込み、自ら分析・判断できる状態を実現



✓ データに基づく施策を自立的に実行できる体制へ



✓ ユースケース創出と成果の継続・横展開で、地域全体の観光力を強化

事業者の「自走化」と地域の「稼ぐ力」向上へ!



伴走支援を通じて、AIとデータの活用を定着させ、事業者の「自走化」と「成果創出」を最後まで支援します!

